



最上位の
女性上位社会
を目指す。

女農学園学校説明会

サークル:女神toM 

このパンフレットは、女慶学園学校説明会のスピーチを文字に起こした内容となります。
ご入学の検討にお使いください。

《ご挨拶》

当校の教育理念は、「優尊自立」。
優れた者を尊び、生徒それぞれが自立するための精神を構築することこそが、当校の教育
理念でございます。

この優れた者とはつまり名家の生まれの女性の皆様のことです。

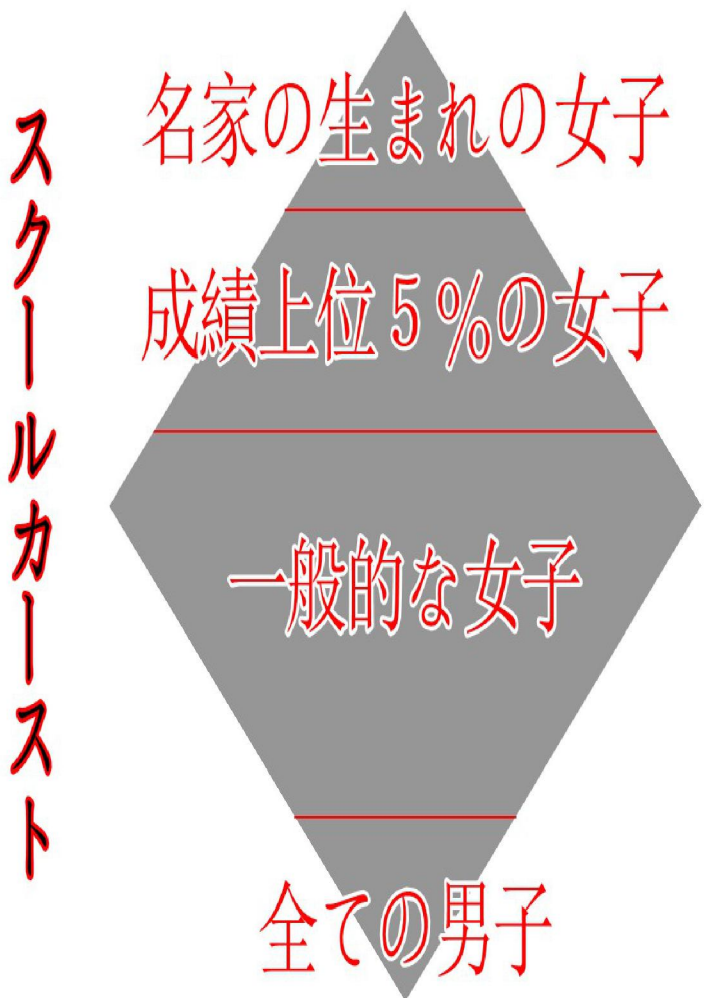
しかし、中にはこのことを理解できていない者も社会にるのが実情。

ゆえに、学校教育の段階で社会的階層・ヒエラルキーを導入し、すべての生徒に「身分の
違い」を理解してもらう必要があります。

そのためには、スクールカースト制度が最も正しい選択肢であると当校では確信を持って、
教育の現場に立っております。

まずは、中央のスクリーンをご覧ください。

当校のスクールカースト制度は図のようになります。



では下から順にご説明致します。
まず、最下層に位置する男子。

これは議論の余地がありません。
この30年間で最も優れているとされた男子でさえ、体力・知力ともに女子の平均値の半分に届かなかったのですから。

また男子の数自体が減少傾向にあります。
生物として劣る種が減少するのは、まさに自然の摂理そのものです。

次に一般的な女子。

ここに属する女子は、成績も生まれも全てが凡庸な女子生徒のことです。
男子ほどではありませんが、やはり下の階級であることは避けられません。

数も多いですし、名家の皆様からすると、使い勝手の良いコマ…ということになるでしょう。

実際、多くの一般女子は生涯にわたり名家の生まれの皆さんや上位5%に属する女性の下で働く…という生き方をするのが普通です。

当然学校でも一般女子は、名家の生まれの皆様どころか上位5%の女子にさえ絶対服従が基本です。

ただし、人権にはご配慮ください。

男子と違い、女子にも人権がございます。

あくまで社会の中で無理のない範囲で、お使いいただく…ということでもよろしく願います。

次に、女子にのみ許された努力と、才能を活かした成績上位5%の女子。

ここに凡庸な女子が入るには相当な努力が要求されます。

されますが、実現可能な一面からも凡庸な女子が目指すべき『目標』と言えるでしょう。

しかし、実際問題としては上位5%に入る女性はそのほとんどすべてが名家の生まれの方のみです。

『遺伝子から受け継がれる能力の準位性』が発見され既に一般的になりましたが、これが間違いでないという照明かと考えられます。

最後に、名家の生まれの女子。

これは皆様のような、大物政治家のご家庭など、人の上に立つこと。人の背に座ることを許された人間のみの階級となります。

DNAによる能力の準位性が認められ、社会的地位の高い人物の子供はそれだけ能力が高い。

鷹の子は鷹。しかし、一般女子のような豚の子は豚…という訳です。

しかし鷹の子であっても、男子は違います。
先程記載しました通り能力が女子に比べて著しく劣り、また自らの身分というものを理解できていない男子というものもまれに存在します。
そういう男子が万一、名家の女子の皆様と同じ教室にいたら、親御様は大変疎ましく思うことがあるやもしれません。

そこで我が校では、全ての男子が最低でも ■校1年を2回。 ■校2年を2回。 3年を3回
経験してもらうこととなっております。
つまりは『強制留年』。

さらに7年目以外の年度は男子を学生としては扱わず、学校の備品として取り扱います。
まず、授業中は廊下で全裸のまま水がみなみ入ったバケツを両手に立たせ、授業以外の時間は女子生徒様の邪魔にならぬよう、ご命令がない限りは掃除用具入れなど目立たぬ場所に外側から鍵をかける形で監禁いたします。

また、7年間教師ならびに女子からの質問に答える以外の会話は一切禁止。
会話する際も畏怖・敬意・尊敬・敬愛が感じられないと女子生徒様が判断された場合、即時、体罰を行います。

体罰・懲罰・教育的指導など男子に対する女子の権限は幅広いですが、当校での体罰は尻叩きが基本となります。

懲罰は校門に全裸で立たせ、各々の女子がその場で実行可能な罰を、好き好きに行う形が基本です。

これらの罰は全て『社会人男性への罰統計白書』に則って決めております。
最後に教育的指導。

教育的指導は主に男子の行動を制限することが多いのですが、中には皆様のような名家の御出身の方にのみ許された行為がございます。

それは男子に貞操帯を嵌めさせ、強制的に勃起・射精などの愚劣な行為を抑制させることです。

これはかなり強烈で、男子生徒の依存心・忠誠心を確実に最上限まで押し上げることがきます。

ただし、貞操帯は男子1人を事実上独占することになるので、周囲との軋轢が生まれぬよう、『名家の御出身の女子のみ』の特権とさせて頂いております。

上位5%・一般女子が行える育的指導は、男子に幼稚園生用のオムツを着用させる『年齢退行教育』が基本となります。

このように、男子に対しては一般女子であろうと、上位5%の女史であろうと皆様のような名家の御出身であろうと、関係なく自由に体罰懲罰、そして教育的指導などが可能です。

もちろん、男子の受ける試験はすべて女子と同じ問題です。

成績が女子の平均値の10分の1に届かなければ、さらに追加で留年。

このような生活を最低でも7年過ごし、ようやく男子は女子と同じクラスで授業を受けることが許されます。

自分たちよりもはるかに優れた女子生徒様のお近くに存在し、慈悲を乞うしかないのだという男子本来の姿にたどりついてから、ようやく同じ生活環境に身を置くことが許されるのです。

これでは男子がクラスに多くいるのでは…？とお考えになる方もいるでしょうが、その心配も不要です。

なぜならクラスの男子の総数は、多くて2名。

普通はクラスに1名です。

全ての女子に、男子がいかにか劣る種であるか理解してもらうためにも、最低でも1名という国の規制がございます。

これを実現するための7年強制留年でもあります。

男子というのはそのくらい数が少なくなってしまうた劣等種でもあるのです。

《当校の卒業生とその学生生活》

さて、では次に当校の卒業生がどのような学生生活をしてきたか、実例で御覧いただきましょう。

まず一人目のご紹介は、ヒエラルキーの最上位である名家の生まれの女子柊木香奈さん。

この方は成績も上位5%に入る、まさにエリート。

女子の中の女子である、『女史』と言えるでしょう。

香奈女史は、後ほど紹介する柊木大輔（ヒイラギ・ダイスケ）の妹君にあたる方です。

しかし、柊木大輔と違う点は、『女性に生まれた』という点に留まらず、学校でも常に上位5%に入る才女でもあった点です。

当校の学生であるところから7つ年上の大輔よりも頭脳面・身体能力面・社会的信用において、遥かに優れており、文句のつけようがありませんでした。

現在は女慶大学医学部名誉教授、国連女権委員会日本政府代表であらせられます。





次にご紹介するのは、ヒエラルキーの最下層にいる男子。
柘木大輔。

今回の事例では、7年目の■校3年生を迎えた男子生徒です。
成績は7年間一度もクラス最下位を脱出したことがなく、身体能力は女子の20分の1に
届きません。

もちろん、身長・体重とも同級生女子の平均値の半分にも届いておりません。

しかし、大輔には一点だけ他にはない特徴があります。

生まれが名家なのです。

ただし男子なので、なんのメリットもありませんが…(笑)。

卒業後は懲罰的男子強制徴用として、4年間の女性専用公衆便所の舐め掃除奉仕を終え、
現在は御慈悲を頂けたのか、香奈女史の事務所で無賃労働に勤しんでおります。



最後に、ヒエラルキーの下から二番目。

『一般的な女子』である木下絵里さん。

ごくごく一般的な生まれで、ごくごく一般的な成績の女子です。

特に優れた点はありませんが、強いて言えば胸が大きく、グラマーな体格です。

もしも、男女平等な時代であれば、さぞ男子からはモテたことでしょう。

もつとも、生物的に劣る男子が女子と同じ身分ということなど絶対にありえませんが…。

卒業後は無事にそれなりの…、身の丈にあつた大学を卒業し、現在は香奈さんの事務所で、数多くいる部下の一人として働いております。

《学生生活》

では学生生活のご紹介に移らせていただきます。
春爛漫の4月。
クラス分けも終わり、新たなクラスメイトの顔合わせの際、香奈女史は、兄の大輔と出会ったしまったようです。

当然大輔は全裸。

そして香奈女史に命じられれば、絵里さんも全裸が基本。

同じ女と言えど、その格差は明確。

椅子になれと言われれば、四つん這いで椅子になるのが一般女子の義務というものです。
しかし、大輔はこの程度では済まされません。

全裸のまま目隠しをされ、立たされ、チ○ポをじっくりと観察されます。

まあ、女子からすればこの程度はごく一般的な男子いじりの範疇といえるかもしれません。
しかし、立たされチ○ポを観察されているのは、実の兄。

自ら全裸になるよう命じ、チ○ポをじっくりと観察し、嘲笑するは実の妹。

学年こそ同じとはいえ、その年齢差は実に7歳。

悲しい話ではありませんか。

そこに香奈女史が取り出したのは、金属製のチューブ。

いえ、正確にはチューブ型の貞操帯です。

クラスに1人しかいない男子のチ○ポを貞操帯で封じるのは、たしかに他の女子生徒から反感を買うことがあるでしょう。

しかし、実の妹。

名家の生まれの女子。

それらを差し引いても、成績上位5%の女子。

香奈女史を止める事ができる生徒はいません。

絶対上位者が全てに優先される。

これがヒエラルキーというものの本質です。

何も知らないのは、大輔ただ1人。

目隠しをされたまま、自分がこれから何をされるかさえ想像できていないようです。

香奈女史はそつと大輔の顔を見上げ微笑み、貞操帯をカチャカチャと鳴らします。



あゝあゝ。

勃起してしまいましたね。

実の妹にオナ禁強要されると分かって、
…勃起（笑）

これは完全に、『当分射精出来ないなら今出してしまいたい』という浅ましい思いが噴出したの、勃起と考えて間違いないでしょう。まったく浅ましいものです。

当然ながら、実の妹に嘲笑の表情を向けられます。なぜなら射精させることなどありえないから。

クラス分け当日の…、同級生になったばかりのタイミングで…、大輔に射精させるくらいなら、そもそも貞操帯など用意しないでしょう。

射精させたくないから、貞操帯を用意しているのですから。

大輔もそのことが分かっているようで、今にも土下座し、射精のオネダリをしそうなほど震え上がっておりますが、なんとか『立たされポーズ』を維持しているようです。

7年間も留年し、7年間も女子にいじめられ続け、7年間も身の程をわかまえるよう調教されてきたのですから、これぐらい我慢してもらわなくてはなりません。

我慢は当然。

大輔は男の子なのですから（笑）

そして目隠しの効果というのは、見えない恐怖…という言葉だけでは語れません。

目隠しをされると人間は、時間を長く感じるのです。

それは見えないことによる警戒心が、時間の密度を濃くしたことにより起こるのですが…。おおよそ5分が30分に。

30分が2時間に感じます。

時間を伸ばせば伸ばすほど、感じる時間は比例して増えていきますが…、目隠しの時間はほんの数分でも相当な長時間の恥ずかしさを煽ることが出来るのです。

目隠しをされていない側の、周囲の人間からすれば、ほんの数分。

そのほんの数分でさえ、大輔には長時間視姦され続け、チ○ポの形・サイズ。卑小性。全てを包み隠さず見られたという認識だけが頭に残るのです。

さて、ちょうど折よく絵里とは違う一般女子が、香奈女史に頼まれた買い物から帰ってきたようです。

その手にはコンビニの氷袋。

氷袋の使用法は勃起したチ○ポに押し付け、射精無しで勃起を収めることです。

香奈女史は黙って氷袋を受け取ると、そのままギョツと大輔のチ○ポに押しつけ、見事に勃起を収めました。

可哀想に大輔は、射精させてもらえませんか。

そもそも射精させてもらえると期待する浅ましさも罰を受けて当然の行為ではありますが…。

事前に氷袋を買ってくるよう命じる香奈女史のこと。当然、大輔には相当に厳しい罰が与えられることでしょう。
しかし今は、ただただ香奈女史の、見事な手回し。見事な指示に惚れ惚れしながら、氷の冷たさに縮こまっていく大輔のチ○ポに注目しましょう。



さあ、先程まであんなに激しく勃起していたチ○ポは、あっという間に親指サイズ↓小指

サイズ↓小指未満のサイズに縮小していきますよ。

ありあり、アレではもはやチ○ポとは言えませんね。

本来女性が求めるモノとは、全くの別物。

しかし、これこそが本来の意味での男子のあるべき姿と言えるかもしれません。

何しろ、女性に挿入するなどという「あってはならない行為」の為に、チ○ポを膨らませる行為自体が間違いの元なのですから…。

氷の冷たさに震え、香奈女史のお気持ちに震え、チ○ポを縮ませる姿はまさに男子のあるべき姿です。

そして、先ほど取り出した貞操帯。

これを嵌め、大輔が誰の所有物であるかをクラスの全員に分かるよう明示するのが香奈女史の狙いです。

そして、これはごくまれに勘違いした馬鹿な男がいるので気を付けなければいけないことです。本来貞操帯とは、男の純潔さを守らせるためのものです。

純潔さとは、「貴女様だけの所有物であることを誓います」という意味。

となれば、貞操帯は女性が『嵌めてあげる』ものではなく、男性が自らすすんで、『貞操帯を嵌め、鍵をお預かり頂くよう懇願する』のが正しい姿と言えるでしょう。

こういった世の摂理を当然のこととして理解されている香奈女史は、大輔に目隠ししたまま自ら貞操帯を嵌めさせ、自らの意思で鍵をかせせていますね。

決して女性が『嵌めてあげる』などということの無いよう、重々気を付けましょう。

また、鍵はできるだけ高価で、重みのある南京錠がお勧めです。

学生に限らず貞操帯を嵌められた男は、必ず開錠を試みます。

しかし重みのある南京錠であれば、開錠されることはまずありません。

重さは、堅牢さの証でもあるのです。

絶対に開けられないのだと自覚させることが、より強い女性への依存心を育むことになります。

また、常に嵌めている貞操帯にさらなる重さが加わると、より強く『管理されている』自覚を持つようになります。

これは軽い鍵では起こりえないことなのです。

一般的には男子はクラスで1〜2名なので、女子全員の共有奴隷となりますが、今回のようにヒエラルキーの最上位を独占するような偉大な女史がいる場合にのみ、このような男子の管理を愉しむことが許されます。



また、同時にこういったプレイがきちんと行われることによって、ヒエラルキーの中央部にいるような一般女子などは、自分の身分というものを理解するようになるのです。『自分の下には、最下層の男子がいる。されど自分の上には最上位の同性がいるのだ』と。